

Robert Kōda



Takumi-series
K-70



「ロバート・コーダ」ブランドは、私たちの想いを結集した最高傑作 Takumi K-70 をこの度、ご紹介できることを大変喜ばしく思います。

「大胆なまでにシンプル」という概念は、私たちの哲学の原点です。

この概念は、単に無駄を省いた構造のアンプがシングルエンドクラス A に最適である、というだけではありません。素子同士を結びつけ、単体同士よりもはるかに強くつなぎあわせた、私たち“独自”の電流モード回路を使用しています。

この手法を創りあげるまでに、膨大な製作費用と幾数年もの歳月が必要不可欠でした。これが K-70 の辿ってきた軌跡です。

私たちロバート・コーダにおいて、アンプの良し悪しを測るスケールはただ一つ、「音質」です。

産業界は未だに規格にばかりこだわり続けていますが、私たちはこの規格がいかにか誤った指針に基づき、どんな費用を要し、そして不適切なスケールであるかを重々理解しております。

K70 のずば抜けて優れた「音響美」の神髄は、人工的なオーバートーンになることなく、ラウドスピーカーにより極点に達するところまで音質を引き上げ、また実に荘厳で優美、大胆で鮮烈な音楽を皆様にお届けすることができる点にあります。

ユニークなシャーシレイアウト

私たちは理想的なパフォーマンスとは言い難い一般電源に充足することなく、コンデンサーに依存しないオリジナルの DC リアクターを採用しました。

そのサイズと磁力から別ユニットに収納する必要性を考慮し、あえてトリプルシャーシ形式とすることで、モノアンプとスピーカーの設置間隔を狭めることが可能になりました。

このモノラルアンプは、ノーマルモード、つまり、コネクタ、真空管、その他の表に見えない部品が下方向にぶら下がり、逆さまの状態になった配置が可能です。

あるいは、すべて陳列した際に姿をあらわにする素晴らしい電子装置やチューブライトに接続されたコネクタへのアクセスを容易にする逆モードでの配置も可能です。

また、側面モードでは、一切の妥協を許さない多くのオーディオ愛好家のために、ケーブルの長さをさらに短くしています。

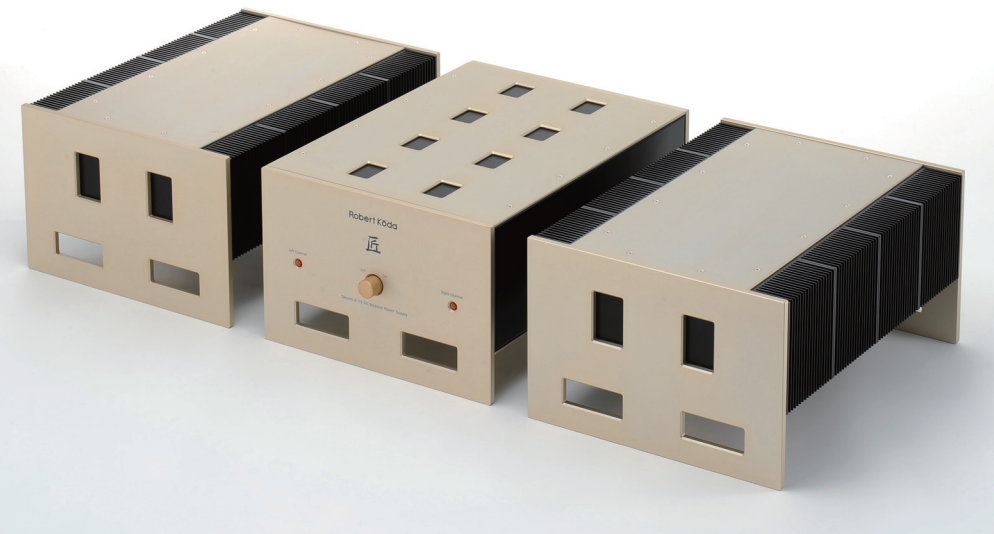
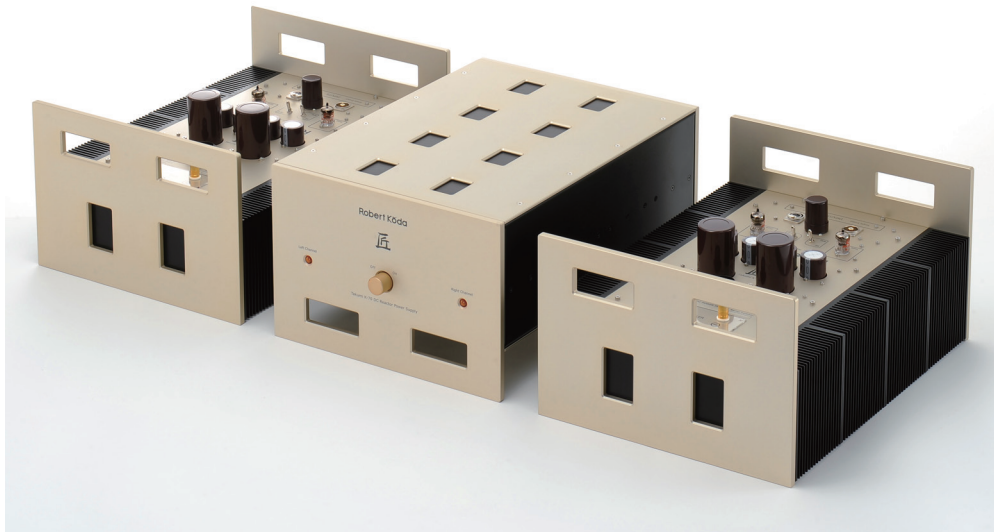
当社は、誇りを持って独自のブランドを示すためにこれら全ての代替え配向性を容易にする製品本体の「表」と「裏」に、意図的にシルクスクリーニングを施しました。

フレキシブルな入力オプション

K-70 にはバランスとアンバランス入力が装備されており、どちらの入力も最適化されている為、入力機器の特性のみを考慮してインプット方式の選択をすることができます。

安定、不安定の両方の入力を詳細に設定することで、当社独自の自家 D/A コンバータなど、数少ない特殊電流モード製品をもサポートできる、送電形式（電流モード）信号の活用が可能です。

A unique chassis layout.



負荷化での安定性

高性能スピーカーは、音に反応してそれぞれが不規則に変化する電圧、電流（帰還）を生じます。これはアンプへの過負荷となり、時に深刻な性能低下や、音の劣化、パワーダウンの原因となります。このことが、多くのブランドをより低い抵抗、ハイパワーの追求へと駆り立ててきました。

K-70 のユニークな設計は、そうしたハイパフォーマンススピーカーとの明快かつシンプルな接続を前提としており、オーバーロード時の瞬時回復の速度や、回避回路に依存せずシグナル遅延のない構成などにより、70 ワットというパワーの上限を感じさせないレベルのパフォーマンスを提供します。強く揺れ動くほどの音量域に於いてもスピーカーの能力を引き出し、同時に新たなサウンド領域でのコントロールが可能です。

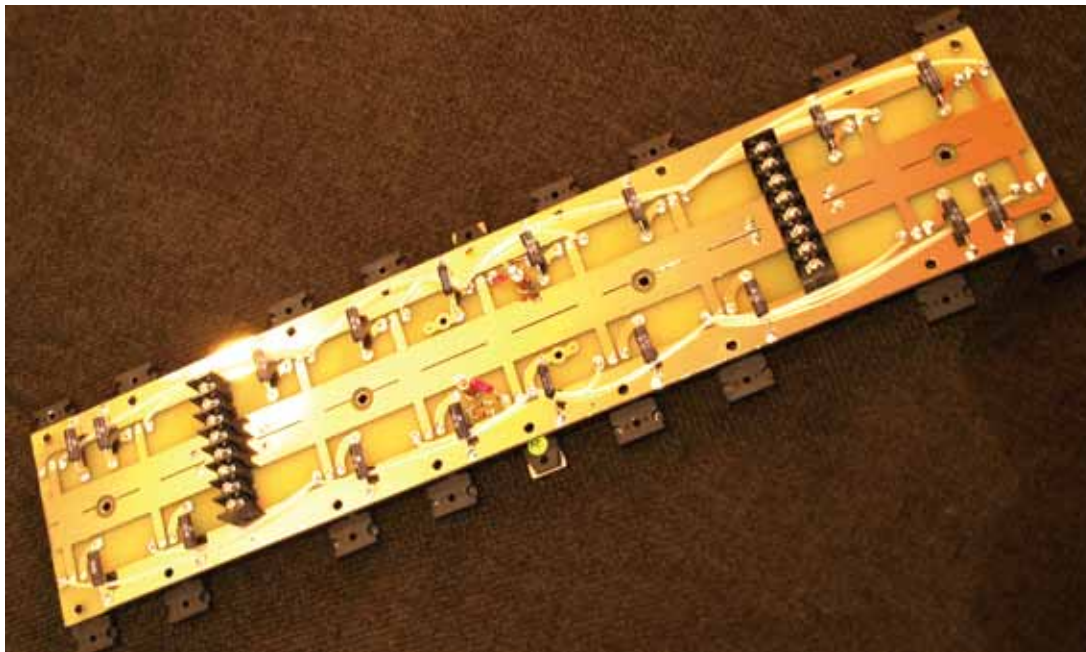
最高級グレードパーツ

楽器の世界に於いて、素材、パーツ、構造の細部の差異がそれぞれの楽器の系図を左右するように、そうした楽器の演奏の再生に関わるアンプを構成するアクティブパーツ、パッシブパーツに於いても同様のことが言えます。

原音に忠実である為には、アンプ自体の設計もさる事ながら、パーツや素材の選定が非常に重要になります。

K-70 の全てのコンセプトは、演奏する者の意思を限りなく損なわないということにあります。私たちは、内包するエレクトロニクスが常に最高のパフォーマンスを提供できるよう、全ての制作過程に於いて細心の注意を払っています。

そしてアンプの持てる能力を最大限に引き出す為に、オリジナルパーツを一から制作しました。



The highest grade components.

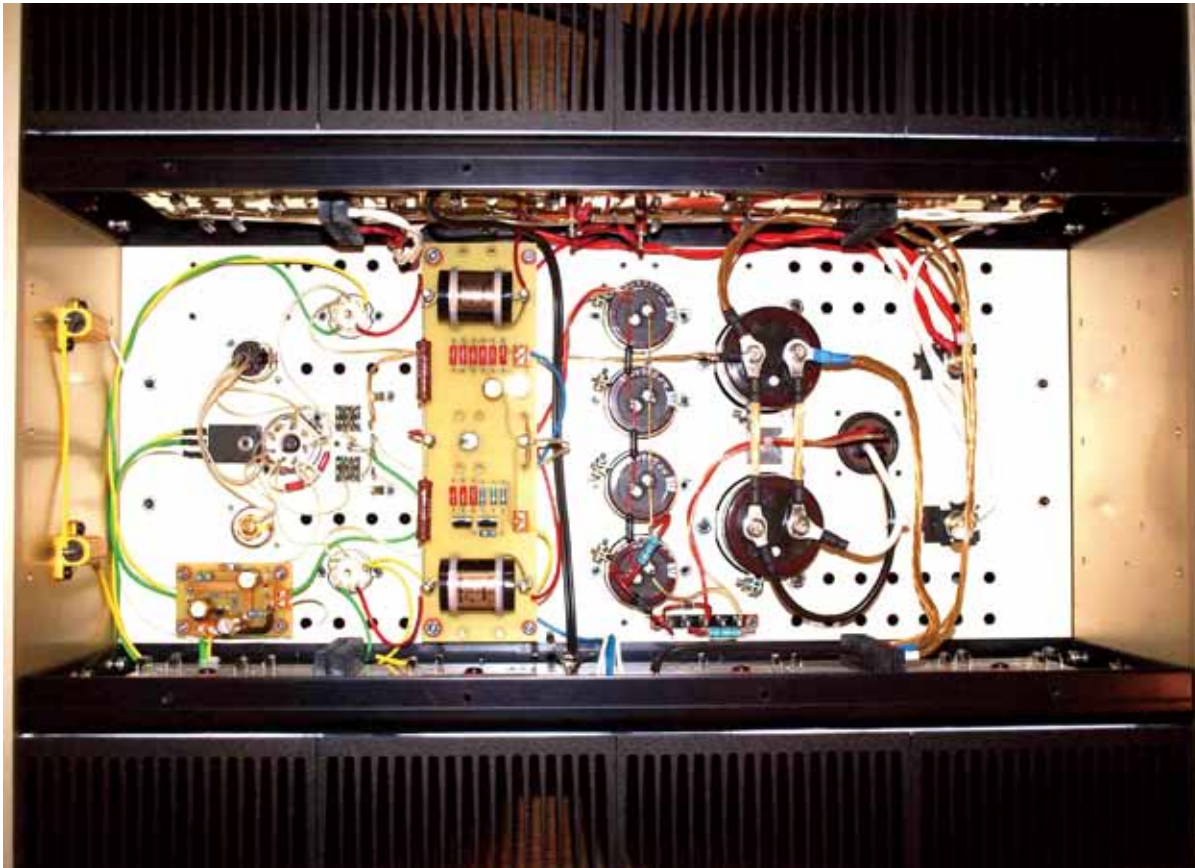
配線

プリント基板のトレースを大幅に排除し、ポイント・ツー・ポイント配線を施しました。基板上的各エリアにおいては、特定の信号レベルや機能の実現に適切な配線ルームを備えるべく、特別の配慮を払っています。また、最大限の性能を引き出す為に、高純度の銀リッツ線、リッツ線構造の金メッキ無酸素銅、そして純度 99.99% の銀から成る高スペックの半田合金を採用しました。メインのプリント基板は、リッツ線の加工工程に倣ったプロセスにより製造します。

このプロセスを採用する事により、 $280\mu\text{M}$ もの厚さを持つ箔を形成します。この箔には金メッキが施されており、さらにシルク・スクリーン印刷をしていません。その結果、プリント基盤の表面に一切穴がなく、優れた電気的特性を実現しました。

配線の工程では、全ての作業に最新の注意を払って全力を注ぎます。プリント基板の組立工程直前に、各配線・半田の酸化部分を取り除き、半田処理後には接合部分一つ一つを洗浄し、その接合状態が完全であるか否かを確認します。

量産用組立工程の場合を除き、熟練した技術者が十分に時間をかけ、配線を手作業で確実に構築します。この一意専心な作業により、一般のアンプや標準的な製造工程ではまず不可能とも言える、配線ルームの実装を実現しているのです。



Wiring looms

複数の段階に適合した、最良の部品達

私たちは慎重なマッチングの試験をして、最適なトランジスタと真空管を選定しています。

真空管およびトランジスタをテストボードに半田付けし、ボードを放熱器にボルト止めする事でテストの時の温度と製造状態を記録しています。

これによって、完全な使用状況を疑似しているのです。

全てのデータを照合する事で、それぞれの物理デバイスを一つの製品としてまとめています。その膨大な努力によって、品質の高い製品にしているのです。選定された部品は、ペアでの動作確認結果を個々のシリアルナンバーにて記録されています。

この厳しいマッチング試験が、優れた結果を生み出しているのです。K-70のその他の部品は、これほどのマッチング試験は求められていないものの、温度管理、または簡易試験にて確かな信頼性を保証します。

DCリアクター・アイソレーション電源

例えば汚れた AC 幹線などといった、物理的に音楽に不調和をきたす要素を回避する為に、ロバートコーダはコンデンサーやレギュレーターを用いず、塞流コイル電源を使用しています。私達の用いたこの DC リアクター電源は、主として AC 線の質に左右されない為、如何なる条件でもアンプを完璧に動作させることができます。

このリアクターは、AC 電流へのノイズフィードバックを極めて最小に留めており、それによってシステム内の他部分へも影響を与えません。また、一般的なトロイダルトランスは使用せずに、私達の求める条件を満たすようカスタムメイクされた進化型トランス「R コアトランス」を導入しています。

いわゆる高インピーダンス入力・低ターミネートインピーダンスを実現する構造により、DC コネクターケーブルがシステム全体の性能に与え得る影響を確実に取り払う事ができます。

このようにして、アンプ自体が電源の善し悪しに左右されることのない至って相互的な結合といえる形により、比類なき上質なサウンドを容易にすることが可能になりました。

DC Reactor Isolated Power Supply



最上級の信号 / ノイズ比、超低インピーダンス、シングルエンデッド回路によるワイドな周波数特性

名器と言われる一部のシングルエンデッドアンプの高い音質は広く知られていますが、いくつかの、いわば本質的な技術的制約から、全ての機器が常に最高のパフォーマンスを達成しているとは言えませんでした。

K-70 はそうした一般的な認識がもたらし得る制限を取り払い、技術的な限界を超越することに成功しています。

出力インピーダンスは、驚くべき 0.07ohms というレベルに保たれ、K-70 に絶大なるスピーカーコントロール能力を与えています。パワーレスポンスは 200khz オーバーにまで高められ、真空管アンプにとっての最大の弱点とも言える信号 / ノイズ比は、最高スペックのトランジスターアンプをも凌駕する 1ワットあたり 100db を達成しています。

更に、限りなくシンプルで安定性のあるアンプを最高の技術によって作り出すという私たちのデザインのゴールの集約として、K-70 の出力ゲインにはたった一本の真空管しか使用されておらず、これは既存の「シンプル」という概念を更に推し進めたものになっています。

最小限でかつ（音質への）影響が少ないモニタリング回路

TakumiK-70 は今までになく純粋なアンプデバイスとして作られました。動作条件や動作時の定数を複雑な回路で調整する必要はありません。

このアンプは、懐古的な表現、伝統的な姿勢、あるいは往年の純粋主義的姿勢に立って改良するのではなく、正常な動作で回路がスプリアスモニターやコンピュータに依存せずに、すべての動作パラメータで最適な動作をし、リアルタイムに動的变化に適応するという前提で設計され組み立てられています。

モニタリングと演算の誤差に影響されることなく動的な変化を実時間にて最適に対応します。演算誤差はノイズを発生させますので、それによる回路の定数の調整を常に実行する必要があります。このような純粋なアンプの仕様には制約はなく、演算方法やブラックボックス化による妨害（音質劣化）の可能性はありません。

音質に最適化した経路にはヒューズ一つ入っていません。当社のパワーアンプは重量感、透明感、良質感を基本的な概念としています。

リミテッド・ハンドメイド・プロダクト

全ての Takumi K-70 システムの入念な組み立てとテスト工程には 2 週間という期間が費やされ、そこには制作者の強い想いと制作チーム全体の大きな力が込められています。

そして、まさに機器に魂を吹き込む工程とも言える最終仕上げはデザイナーが自らが行っています。

更には、最終ベンチテスト工程～パッケージングに先立ち、プロデューサールームにて最短でも 1 週間の期間音質テストが行われ、アンプのソニックパフォーマンスがテストされます。

ロブ・コーチの長年に渡るアンプの最終定義への揺らぎなき探求。彼自身のエネルギー、ユニークなマテリアル選定と、それにかかる代価、それらの全てには大量生産方式においては決して達成することのできない、自らの手で作り出すことへの深淵なる情熱が込められています。

卓越した匠の手によって卓越したリスナーに向けて作り出される Takumi K-70。
実に年間 20 台という非常に限られた生産台数に私たちは強い誇りを持っています。

是非ゆったりとリラックスして、ミュージシャンとパフォーマーによる演奏というアートの結晶によって紡ぎ出されるありのままのサウンドに耳を傾けて下さい。

そしてなによりも、いつまでも続く素晴らしいリスニングエクスペリエンスを。

Specifications

DNA 別個の電源を持つクラス A1 ハイブリッドパワーシングルアンプ。

出力パワー 70W 以上。抵抗値 3 オームから 7 オームでパワーが最大となる。

Gain(出力率) 電圧モードでは 25.5dB SE。

入力インターフェース (入力抵抗) 電圧モードでは 30K オーム。 電流モードでは 50 オーム。

出力インピーダンス (出力抵抗) 20Hz から 20Khzd で 0.07 オーム未満。

ノイズ割合の信号 ノーマル出力で、115dB より大きい。

パワーレスポンス 5Hz 未満 ~ 200KHz 以上

電力消費 いかなるボリュームをどの負荷にかけても 1000 ワット。

サイズ 幅 380mm、高さ 256mm、深さ 550mm。(3 ユニット それぞれ)

重量 電源：40Kg Mono アンプ：各 20Kg

操作環境 操作温度は 摂氏 0 度から摂氏 35 度まで。
高度は海拔 0 から 3000m まで。
保管温度は 20 度から摂氏 50 度まで。

このブランドは2007年東京で誕生しました。当社の主なビジネスは、会社で生産される製品というよりは、むしろ、音楽を愛する個人が持てる技術を駆使し、魅力的で素晴らしい特性のある音を丹念に追求してデザインし、作り上げたアンプ、そういった物を市場に出すことです。

ロバートコーダの提案は、妥協を許さない音楽リスナーにこの素晴らしいアンプを所有して頂き、楽しんでいただける機会を提供する事です。

今後も、消費主義時代の先を見据え、音の真髄を追及するリスナーに愛されるアンプを提供し続けてまいります。

Robert Koda llc [ロバートコーダ合同会社]

〒174-0051

東京都板橋区小豆沢 1-9-4

TEL/FAX 03-5392-4339

sales@robert-koda.com